

2025 年度（公社）日本地すべり学会 事業報告

1. 総務部

(1) 行事

① 通常社員総会の開催

- ・ 日時：2025 年 6 月 13 日 11 時 00 分～12 時 00 分
- ・ 場所：TKP ガーデンシティ渋谷 ホール A
- ・ 参加者数 36 名（会場 16 名、オンライン 20 名）、委任状提出 26 名、書面議決提出 6 名（計 68 議決権）
- ・ 社員総会は、ハイブリッド形式で行った。

② 理事会の開催

- ・ 2025 年 9 月 16 日、2026 年 3 月 6 日（ハイブリッド形式）
- ・ 2025 年 5 月 9 日、11 月 28 日（オンライン形式）
- ・ 理事会は、ハイブリッドまたはオンラインによる形式で行った。

③ 執行部会の運営事務

- ・ 2025 年 4 月 28 日、5 月 16 日、6 月 4 日、6 月 24 日、7 月 17 日、8 月 22 日、10 月 21 日、11 月 14 日、12 月 15 日、2026 年 1 月 21 日、2 月 17 日、3 月 17 日
- ・ 執行部会は、オンライン形式で行った。

④ 役員選挙の運営事務

- ・ 選挙管理委員会：（第 1 回）2025 年 12 月 26 日、（第 2 回）2026 年 2 月 25 日（オンライン形式）
- ・ 選挙公示：2026 年 1 月 20 日、投票締め切り：2 月 20 日、開票：2 月 25 日
- ・ 当選者の決定・当選者の公示：2026 年 3 月 6 日

⑤ 表彰委員会の運営事務

- ・ 2025 年 4 月 16 日（オンライン形式）

(2) 庶務

- ・ 社員総会、理事会及び執行部会に係る議事資料及び議事録の作成
- ・ 細則の改訂
2026 年 3 月 6 日 理事会：国内旅費細則（旅費の請求方法の改訂）
- ・ プライバシーポリシーの策定と学会 HP への掲載
2025 年 11 月 28 日 理事会決定

(3) 財務

- ・ 予算執行状況の確認
- ・ 決算書及び予算書の作成

(4) 広報

- ・ HP 内容の更新およびメーリングリストによる情報発信（メーリングリストの新システムへの移行）
- ・ 対外活動にかかる調整

(5) 部会・その他

- ・ 2025 年 5 月 26 日 総務部会（オンライン形式）総務部 4 名、執行部 1 名
- ・ 2025 年 7 月 17 日 支部長会（オンライン形式）支部長 6 名、執行部 2 名

2. 事業計画部

(1) 第 64 回研究発表会及び現地見学会の開催

- ・研究発表会は 2025 年 9 月 16 日～19 日にかけて奈良春日野国際フォーラム 薨～I・RA・KA～を会場として開催。意見交換会はホテル日航奈良で実施。
- ・参加者数：県民講演会 約 100 名，研究発表会 720 名（出展者等も含む）
意見交換会 423 名，現地見学会 89 名：
- ・発表数：口頭発表 129 件、ポスター発表 55 件
- ・特別講演：9 月 17 日に 1 件の講演を実施
- ・県民講演会：9 月 16 日に 2 件の講演を実施
- ・現地見学会：9 月 19 日に 3 コースで実施
- ・新技術展示セッション：29 ブース（28 社）の展示
- ・若手優秀発表賞の審査を実施（受賞者数：口頭発表部門 13 名，ポスター発表部門 3 名）

(2) 2025 年度シンポジウムの開催

- ・2025 年 6 月 13 日に「寒冷地における斜面変動 - 氷河・周氷河作用にも注目して」を TKP ガーデンシティ渋谷およびオンラインによるハイブリッド開催
- ・講演数：5 件
- ・参加者数：152 名（会場 79 名・オンライン 73 名）

(3) 部会の開催

- ・日 程：2025 年 4 月 14 日、7 月 11 日、9 月 18 日、10 月 31 日、12 月 11 日、
2026 年 2 月 24 日
- ・2026 年度シンポジウムの準備
日程、開催方法、テーマ、話題、進行の検討
- ・第 64 回研究発表会の準備と総括、第 65 回研究発表会（群馬大会）の準備
日程、開催方法、予算、運営、講演集、若手優秀発表賞の検討

3. 編集出版部

(1) 日本地すべり学会誌編集委員会

①編集委員会の開催 2025 年 4 月～2026 年 3 月まで 12 回開催(月 1 回、全てオンライン会議)

②日本地すべり学会誌 Vol. 62. 3～6、Vol. 63. 1～2 計 6 号の発行

③特集号の企画・発行

- ・62 (4) 特集号「最新のリモートセンシング技術と地すべりの研究」
- ・62 (5) 小特集「山形県鶴岡市西目地区斜面災害の発生機構」

※当初予定していた 62(2), (6) 特集号は応募原稿が無く，一般号に振り替えた

④シリーズ等の企画・連載

- ・シリーズ：「新用語集 地すべりキーワード 101」の連載継続
- ・シリーズ：「地すべり探訪」の連載継続
- ・国際部によるフォーラムの定期掲載
- ・賛助会員による「わが社の技術」の継続

⑤日本地すべり学会誌電子ジャーナル(J-stage)の刊行

⑥技術報告賞および査読者賞の候補者の推薦

⑦投稿規定等の改訂

- ・ 文言の統一、文章の簡潔化、新投稿システム Editorial Manager への対応
- ・ 上の修正を英語版にも適用

(2) 出版委員会活動

- ① Landslides in Japan 改訂作業への協力
- ② 出版企画の審査（出版企画の新規申請なし）

4. 研究調査部

(1) 研究助成

- ・ 2025 年度の助成案件は以下の 2 件である。
 - ・ 積雪地域に存する地すべりの活動に影響を与える地下水のかん養域の特定と効果的な排水トンネル工の配置について、3 年目、代表：楠本岳志
 - ・ 地下水排除工のスライム付着防止・除去に資する「黒色物質」の作用メカニズム、2 年目、代表：渡部直喜

(2) 地すべり・土石流災害調査報告会

以下のようにオンラインで開催した。

開催日時：2025 年 12 月 11 日 15:00～17:00

オンライン（Zoom を利用）

参加人数：187 名

プログラム：以下の通り。

開会あいさつ 古谷元（日本地すべり学会研究調査部長・富山県立大学）

調査報告 司会：柴崎達也（国土防災技術（株））

1）伊吹山南側斜面におけるシカの採食による植生衰退に起因する土壌浸食と土石流

発表：石川芳治（東京農工大学）

2）2025 年 2 月の岩手県大船渡市林野火災後の地表環境の変化

発表：岡本隆（森林総合研究所）

3）令和 6 年 9 月豪雨時の能登半島における土砂移動事例

発表：竹田尚史（日本工営株式会社）

総合討論 司会：木村匠（琉球大学）

(3) 研究委員会の活動

2025 年度は以下の研究委員会活動を実施した。

- ① 地震時地すべり研究委員会（代表：土井一生）
- ② すべり面および移動体の物質科学・構造研究委員会（代表：山崎新太郎）
- ③ すべり面に作用する地下水ポテンシャルに関する研究委員会（代表：渡辺修）
- ④ 計測変位に基づく地すべり防止工事計画論研究委員会（代表：萬徳昌昭）
- ⑤ 多次元方向の計測変位に基づく斜面崩壊発生予測手法研究委員会（代表：佐藤渉）

2026 年度の新規活動テーマの募集を行った。

(4) 研究調査部会

メールおよび対面で報告・検討・審議を実施した。

① 報告

- ・ 研究調査部員の交代について（2025 年 4 月 24 日：メール）
- ・ 研究助成（終了案件 3 件（通常枠 1 件、能登半島地震枠 2 件））の報告書・成果概要の確認に

について(2025 年 4 月 24 日：メール)

- ・令和 6 年度の活動報告と能登半島地震に対応について (2025 年 9 月 17 日：対面)

② 検討

- ・令和 7 年度地すべり・土石流災害調査報告会の企画について (2025 年 9 月 17 日：対面)

③ 審議

- ・研究委員会(「計測変位に基づく地すべり防止工事計画論研究委員会」)の追加委員に関する公募について (2025 年 4 月 10 日：メール)
- ・研究助成(継続案件 2 件)の採否について (2025 年 4 月 24 日：メール)
- ・新規研究委員会(「多次元方向の計測変位に基づく斜面崩壊発生予測手法研究委員会」)の採否について (2025 年 5 月 13 日：メール)

5. 国際部

(1)2025 年度会議

オンライン形式または対面とオンラインを組合わせたハイブリッド形式の会議とした。

① 第 1 回会議 2025 年 9 月 18 日 (ハイブリッド：14 名出席)

- ・来年 1 月 (想定) 海外研究者による Web 講演会について (審議)
- ・地すべり学会誌に連載の国際部 Forum の執筆当番の確認 (審議)
- ・2025 年度新規 IPL プロジェクトの募集 (報告)
- ・2025 ICL-KLC Memorial Conference の参加について (審議)
- ・英語セッション (English Oral Session) の開催 (報告)

② 第 2 回会議 2026 年 3 月 5 日 (オンライン：14 名出席)

- ・2026 年度の活動計画 (審議)
- ・2026 年度の国際部予算 (審議)
- ・2025 年度日本地すべり学会海外研究者による講演会 (報告)
- ・2025 ICL-UNESCO KLC2020 Memorial Conference の出席 (報告)
- ・7th World Landslide Forum (WLF7) 開催のお知らせ (報告)
- ・ココミアン川流域 (キルギス) における岩盤地すべりと関連する現象の 2026 年サマースクールの開催 (報告)
- ・ICL 主担当者の交代について (審議)
- ・来年 1 月 (想定) 海外研究者による講演会について (審議)
- ・地すべり学会誌に連載の国際部 Forum の執筆当番の確認 (審議)
- ・2026 年群馬大会における特別セッションの提案 (審議)
- ・能登半島地震地すべり災害の Landslides 誌への投稿 (Recent Landslides) について (報告)

(2)活動内容

- ① WLF7 (World Landslide Forum 7) のセッション確定及び投稿の案内をホームページに掲示 (12 月 29 日) するとともにメールで会員宛て情報提供 (2026 年 3 月 17 日) した。
- ② 地すべり学会誌 2025 年 5 月, 7 月, 9 月, 11 月及び 2026 年 1, 3 月号の「フォーラム／国際部」で, Landslides 誌に掲載の論文を紹介した。
- ③ 研究発表会で英語特別セッションを 2 コマ開催し, 留学生から計 9 名の発表があった (9 月 18 日)。
- ④ 檜垣部員と廣田部員が ICL-UNESCO KLC2020 Memorial Conference に参加して情報を収集するとと

もに、BOR (Board of Representative; 定例運営会議) で意見を交換した (UNESCO 本部 (パリ) ; 12 月 2~4 日) 。

- ⑤ 海外研究者 (中国科学院・山岳災害環境研究所, 周 公旦博士) の学術講演をオンラインで開催した (周博士を含め, 18 名の参加; 2026 年 1 月 9 日) 。

(3) その他の継続審議課題の検討

- ・新たな国際会議の企画、運営支援の可能性
- ・日本地すべり学会の出版物の ICL 経由の宣伝の可能性

6. 表彰委員会

- (1) 学会賞 (論文賞・技術報告賞・査読者賞・研究奨励賞・谷口賞・国際賞・その他の賞) の審査

表彰委員会 (2025 年 4 月 16 日) にて審議し、以下のように候補者を決定

- ・国際賞 檜垣大助
- ・技術報告賞: 土井一生
- ・研究奨励賞: 山口裕二
- ・学会活動貢献賞: 宮城大会幹事会

- (2) 理事会へ表彰委員会の審議結果を報告し審議: 2025 年 5 月 9 日

- (3) 研究発表会の表彰式で表彰状授与: 2025 年 9 月 17 日

- (4) 2026 年度の候補募集

- ・会員向けメール、学会誌 (Vol. 61、No. 6)、及び学会 Website で推薦公募
- 締め切り: 2026 年 3 月 1 日

7. 解説委員会

2025 年度は対応なし。

8. 選挙管理委員会

- (1) 代議員選挙の報告

- ・2025 年 1~3 月に実施した役員選挙結果を、2025 年 5 月 9 日の理事会にて報告

- (2) 役員選挙の実施

- ・2026 年 1~2 月に、2026~2027 年度の役員を選任する選挙を実施した。

投票率: 97.5% (前回代議員選挙の投票率: 100.0%)

- ・選挙管理委員会 選挙実施準備: 2025 年 12 月 26 日

開票: 2026 年 3 月 6 日

9. 斜面对策技術国際化委員会 国際化委員会を以下の日程で合計 5 回開催した。

- (1) 2025 年度第 1 回委員会 (Web): 2025 年 10 月 8 日

- (2) 2025 年度第 2 回委員会 (Web): 2025 年 11 月 12 日

- (3) 2025 年度第 3 回委員会 (Web): 2025 年 12 月 10 日

- (4) 2025 年度第 4 回委員会 (Web): 2026 年 3 月 2 日

(5) 2025 年度第 5 回委員会(Web) : 2026 年 3 月 27 日

これまでの委員会活動の成果として、以下の 3 つの成果品を作成した。これらの成果品は図表の転載許可手続き等の事務手続きが完了した後に、学会 HP で公開する予定である。

(成果品 A) 斜面对策技術国際化委員会 研究調査報告書 第 1 部：一斜面对策工設計技術解説書
(日本語版・英語版) ー

＜概要＞日本と海外の設計方法の違いに関する個々の課題と海外での対応方法をまとめた解説書

(成果品 B) 斜面对策技術国際化委員会 研究調査報告書 第 2 部：一斜面对策工設計技術の国際化の課題と解説 (日本語版) ー

＜概要＞日本と海外の設計方法の違いに関する個々の課題の歴史的な背景や理論的な意義を深掘りした解説書

(成果品 C) 添付資料：斜面防災関連技術用語日英対比表 (EXCEL 形式)

＜概要＞機械語翻訳などで直訳することが難しい日本独特な専門用語、例えば、地すべり等防止法が対象とする“地すべり”、“くさび杭理論”、“抑え杭理論”、“土丹”、“周面摩擦抵抗”などを含む専門用語の日英対比表。

その他、2025 年 9 月の研究発表会 (奈良大会) では本委員会から特別セッション「斜面对策工の設計技術に関する国際化の課題と対応」を提案し、本委員会の成果に関して 4 編の口頭発表とその後の討論を行った。

10. 能登半島地震災害対応委員会

(1) 委員会の開催

2025 年 9 月 18 日 (奈良) 今後の委員会活動と研究部会の進め方

2026 年 2 月 20 日 (Web) 研究部会の中間成果報告

(2) 幹事会 (Web) の開催

2025 年 4 月 7 日、4 月 22 日、5 月 14 日、7 月 2 日、7 月 18 日、8 月 1 日、9 月 5 日、11 月 14 日、12 月 23 日、2026 年 2 月 10 日

(3) 報告会の開催

「令和 6 年 (2024 年) 能登半島地震災害対応委員会 活動報告会」を能登半島地震調査団報告と合わせて開催した。

開催日時：2025 年 8 月 6 日 13～17 時

開催場所：TKP 新橋汐留ビジネスセンター (Web とのハイブリット)

参加人数：380 名

プログラム：①能登半島地震災害対応委員会 活動報告 (6 件)

②災害調査団 能登半島地震活動報告 (3 班)

③調査研究報告 (6 件)

(4) 研究部会の設置

2025 年度は以下の研究部会が活動を行った。

- ① 詳細地形判読に基づく斜面変動分布図の作成と斜面変動プロセスの復元 (インベントリー部会)
- ② 地震に対する地すべり災害危険性の簡便な評価手法の開発
- ③ 動的解析及び解析結果に基づく対策設計手法の適用性検討

- ④ 能登半島地震およびその後の9月豪雨で発生した地すべり・崩壊の実態事例収集
- ⑤ 変位による地すべり安定性評価

11. 北海道支部

(1) 総会

- ・ 対面とオンライン投票併用による審議
- ・ 審議の日程：2025年4月25日
- ・ 投票結果：否認0名

(2) 特別講演会

- ・ 日 時：2025年4月25日
- ・ オンライン併用による開催
- ・ 参 加 者：160名
- ・ 特別講演：「地すべりの素因・誘因そしてその初生について考える」
野崎 保 氏（野崎技術士事務所）

(3) 第1回運営委員会

- ・ 日 時：2025年7月15日
- ・ 開催形式：対面
- ・ 参 加 者：30名
- ・ 会議内容：2025年度事業計画・実施状況、予算、会員状況、本部動向、その他

(4) 第2回運営委員会

- ・ 日 時：2026年2月13日
- ・ 開催形式：対面
- ・ 参 加 者：25名
- ・ 会議内容：2025年度事業・決算見込み報告、2026年度事業計画・予算(案)、本部動向、その他

(5) 5学会支部連絡会

- ・ 日 時：2026年1月15日 10:00～11:30
- ・ 開催形式：オンライン
- ・ 参 加 者：12名
- ・ 会議内容：各支部（土木学会、砂防学会、地盤工学会、農業農村工学会、日本地すべり学会）の2025年度報告および2026年度計画・今後の連携に関する意見交換

(6) 巡検部活動

- ・ 日 時：2025年10月31日
- ・ 見 学 地：むかわ町（福山橋地すべり、福山地すべり）、平取町（岩知志地すべり、オタリマップ川地すべり）
- ・ 案 内 者：鈴木 俊司 氏（株式会社ドーコン）
笠井 美青 氏（北海道大学 大学院 農学研究院）
桂 真也 氏（北海道大学 大学院 農学研究院）
宇佐見 星弥 氏（北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所）
- ・ 参 加 者：20名（うち案内者4名、運営委員2名）
- ・ 内 容：2025年度の技術講習会の地形判読で扱った地すべりを実際に現場で踏査し、多様な微地形の観察や変動状況、対策状況を見学した。

(7) 広報部活動

広報誌作成をはじめとした、各種広報活動（通年）

(8) 技術普及部活動

「技術講習会」

- ・ 日 時：2025 年 7 月 4 日
- ・ 開催形式：対面、若手の会との共催
- ・ 講 師：石丸 聡 氏（北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所）
宇佐見 星弥 氏（北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所）
本間 宏樹 氏（応用地質（株））
石田 博英 氏（防災地質コンサルタント（株））
- ・ 参 加 者：47 名（うち運営 6 名）
- ・ 内 容：地すべり調査の初学者を対象として、地すべりの概要、調査、観測方法、現地での見え方に関する講習のほか、上久保内、幸内地区の地すべりを対象とした実体鏡および高精度地形図を使った地形判読実習、およびリモートセンシング技術を用いた地すべり調査の紹介を実施した。

(9) シニア会の活動

①シニア会技術交流会（第 7 回北海道ランドスライド倶楽部）

- ・ 日 時：2025 年 6 月 13 日 14:00～16:45
- ・ 開催形式：対面
- ・ 参 加 者：17 名
- ・ 話題提供：「地すべり運動と土木構造物被害」 沼田 寛 氏（(株) ノース技研 札幌支店）
「失われた川を訪ねて「水の都」物語」 宮坂 省吾 氏（(株) アイピー）
- ・ 総合討論：フリートーキング形式

②若手の会・シニア会技術交流会

内容等は若手の会の報告に記載のため割愛

(10) 若手の会の活動

①技術普及部との共催

内容等は技術普及部の報告に記載済みのため割愛

②「もっと！地すべり地形判読」

- ・ 日 時：2025 年 8 月 29 日 14:00～17:00
- ・ 開催形式：対面
- ・ 講 師：石丸 聡 氏（北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所）
宇佐見 星弥 氏（北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所）
- ・ 参 加 者：13 名
- ・ 内 容：今年度の技術講習会のアンケート結果に、より多くの地すべり地形判読（実習）を行いたいとの要望があった。その要望に応えるために、若手の会で地すべり地形判読の実習に特化した講習会を実施した。

③若手の会・シニア会技術交流会

- ・ 日 時：2025 年 12 月 10 日 14:00～17:00
- ・ 開催形式：対面
- ・ 参 加 者：20 名
- ・ 話題提供：
「令和 7 年度 大雨災害について」 石田 博英 氏（防災地質コンサルタント（株））

奥村 旭生 氏（同上）

・講演：

「国道 229 号豊浜トンネル岩盤崩落事故を振り返って—もうすぐ 30 年—」

戸田 英明 氏（（株）北海道朝日航洋）

(11) 対外(北海道地すべり学会)協力

①企画委員会（普及活動）

○岩見沢農業高校の出前授業

- ・日 時：2025 年 5 月 30 日 9:00～16:45
- ・場 所：当別町、新十津川町（道民の森神居尻地区、国道 451 号、当別川流域）
- ・対 象：北海道岩見沢農業高等学校森林科学科 3 年生 33 名、教員 2 名
- ・案 内 者：石田 博英 氏（防災地質コンサルタント(株)）
中鶴 真也 氏（北海道土木設計(株)）
溝上 雅宏 氏（明治コンサルタント（株））
宿田 浩司 氏（和光技研(株)）
渡邊 司 氏（ホクボウコンサルタント）
銭谷 竜一 氏（(株)開発調査研究所）
- ・内 容：現地に実際に施工されている治山施設（法枠工、床固工、雪崩防止柵、スリットダム）を見学し、治山事業の重要性、工事の種類、設計の考え方を学習した。地すべり現象による路面変状を観察し、地すべり発生のメカニズムを学習した。地すべり現象による地形変状を観察し、地すべり対策工施工箇所を 2 箇所（①杭工、アンカー工＋擁壁工、②集水井工＋杭工）を見学した。新第三紀の堆積岩と第四紀の段丘堆積物の露頭を見学し、当別川流域の地質、地形の成り立ちを学習した。

○山地災害防止キャンペーンパネル展

- ・日 時：2025 年 6 月 12 日～13 日
- ・場 所：北海道庁 1F ロビー 道政広報コーナー
- ・主 催 者：北海道水産林務部林務局治山課
- ・参 加 者：238 名
- ・説 明 者：沼田 寛 氏（(株)ノース技研）
溝上 雅宏 氏（明治コンサルタント（株））
柴田 純 氏（（株）シビテック）
伊藤 浩介 氏（国土防災技術北海道(株)）
宿田 浩司 氏（和光技研(株)）
銭谷 竜一 氏（(株)開発調査研究所）
- ・内 容：林野庁が都道府県及び市町村と一体となって一般市民の防災意識の高揚に資するために行っている山地災害防止キャンペーン活動の一環として、地すべり模型の展示実演を行った。

○地すべり模型の出張展示実演「ジオ・フェスティバル in Sapporo 2025」

- ・日 時：2025 年 10 月 5 日 10:00～16:00
- ・場 所：札幌市青少年科学館 2 階 特別展示室
- ・主 催：札幌市青少年科学館指定管理者（公財）札幌市生涯学習振興財団、北翔大学
- ・観 覧 者：81 名
- ・説 明 者：沼田 寛 氏（(株)ノース技研）
宿田 浩司 氏（和光技研(株)）
高橋 拓也 氏（(株)地圏総合コンサルタント）
銭谷 竜一 氏（(株)開発調査研究所）

- ・内 容：1 回 10 分程度の展示実演を 20 回実施した

○地すべり模型の出張展示実演「手稲山地区地すべり「オープンハウス型説明会」」

- ・日 時：2026 年 2 月 13 日～14 日
- ・場 所：札幌市手稲区 手稲コミュニティーセンター 1 階大ホール
- ・主 催：北海道開発局、北海道、札幌市
- ・観 覧 者：56 名
- ・説 明 者：宿田 浩司 氏（和光技研(株)）
磯貝 晃一 氏（(株)開発調査研究所）
銭谷 竜一 氏（(株)開発調査研究所）

- ・内 容：

②研究調査委員会

- ・日 時：2026 年 3 月 18 日
- ・開催形式：ハイブリッド
- ・参 加 者：対面 16 名、オンライン 26 名
- ・話題提供：「火山砕屑物斜面はなぜ地震で壊滅的に崩れるのかー発生と運動のメカニズムー」
王 功輝 氏（京都大学防災研究所）
- ・討 論：「テーマ調査研究の今後のとりまとめ方針について」

③技術委員会

- ・日 時：2025 年 9 月 26 日 13:00～17:00
- ・開催形式：ハイブリッド
- ・参 加 者：対面 31 名、オンライン 18 名
- ・話題提供：「地すべり調査設計業務で活躍する三次元モデリングの基礎」
平元 万晶 氏（国土防災技術北海道(株)）
「能登半島地震による地すべり被害と今後の課題」
杉本 宏之 氏（(国研) 土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべりチーム）
- ・技術委員会活動：話題提供の選定、地すべり技術に関する Q&A、抑止杭 WG（抑止杭の設計・施工に生じる課題の意見交換）

12. 東北支部

(1) 支部総会

- ・日 時：2025 年 5 月 23 日 14:00～14:45
- ・場 所：TKP 仙台青葉通カンファレンスセンター（ハイブリッド開催）
- ・参加者：会場出席＋リモート出席 62 名（正会員）委任状 29 名 計 91 名
- ・意見交換会：TKP 仙台青葉通カンファレンスセンター

(2) 会議等

①役員会

- ・第 1 回（2026 年 1 月 17 日 10 名）
2025 年度事業実行及び決算見込みの確認、2026 年度事業計画及び予算案の策定、支部人事ほか運営に係る協議

②幹事会・委員会

○幹事会

- ・第 1 回（2025 年 9 月 9 日 9 名） 各委員会の事業開催及び準備状況の確認と今後の調整

○事業企画委員会

- ・第1回（2025年5月22日 5名） 2025年度総会及び第1回講演会の開催準備
- ・第2回（2025年8月29日 5名） 第2回講演会の計画立案及び今後の事業について協議
- ・第3回（2026年1月29日 5名） 2026年度総会及び講演会の計画立案

○巡検計画委員会

- ・第1回（2025年6月19日 7名） 現地検討会開催候補地および日程（案）についての協議
開催地を福島県「高森地すべり」とし、10月下旬での開催を決定
- ・第2回（2025年8月7日 6名） 現地検討会 開催地、日程、テーマについての協議
テーマ：「地盤改良工を取り入れた地すべり対策の効果と課題を考える」
- ・第3回（2025年8月22日 5名） 高森地区の現地視察、見学ルート及び実施要領の検討

○研修委員会

- ・第1回（2025年6月3日 5名） 2025年度事業開催についての協議
- ・第2回（2025年6月11日 6名） 若手現地検討会の企画立案と開催に向けた日程の協議
- ・第3回（2025年9月2日 8名） 若手現地検討会の実施要領策定
- ・第4回（2025年9月10日 7名） 開催地（権現崎地すべり）の現地確認と関係機関調整
- ・第5回（2025年9月22日 5名） 若手現地検討会最終打合せ及び事前 Web 研修開催

③運営委員会

- ・第1回運営委員会（2026年3月19日 20名）
2025年度事業実行状況の報告、決算報告の承認及び2026年度事業計画に関する実施方針の検討
2026年度総会議案書の審議

(3) 講演会等

①第1回講演会・研究発表会 *（一社）建設コンサルタンツ協会 CPD 認定 2.00 単位

- ・開催日時 2025年5月23日 15:00～17:00
- ・開催場所 TKP 仙台青葉通カンファレンスセンター 7F（ハイブリッド開催）
- ・参加人数 正会員および支部協賛企業ほか 95名
- ・演題及び講師
「地盤材料の変形と破壊に関する話題」 東北大学大学院 工学研究科教授 山川優樹 氏
「AI 時代に改めて考えたい地質・土木分野における情報技術のまとい方」

諏訪東京理科大学 工学部准教授 菊地輝行 氏

②第2回講演会・研究発表会 *（一社）建設コンサルタンツ協会 CPD 認定 2.75 単位

- ・開催日時 2025年11月11日 13:30～16:30
- ・開催場所 東北支部事務局会議室（ハイブリッド開催）
- ・参加人数 正会員および支部協賛企業ほか 計119名
- ・演題及び講師
「広域における3次元斜面安定解析について」 八戸工業大学工学部 工学科講師 外里健太 氏
「二次元安定解析の諸問題 — c、φ の決定・Fellenius 法と非円弧すべりほか —」
東北支部会員 山崎孝成 氏
「すべり面強度の温度依存性が地すべりの安定性に及ぼす影響に関する議論」

国土防災技術（株）柴崎達也 氏

- ・総合討論

③第3回講演会 *（一社）建設コンサルタンツ協会 CPD 認定 2.66 単位

- ・共 催 東北大学災害科学国際研究所・防災科学技術研究所
- ・後 援 （公社）地盤工学会東北支部
- ・開催日時 2026年3月19日 14:00～17:00

- ・開催場所 東北大学災害科学国際研究所 2F S203 (ハイブリッド開催)
- ・参加人数 日本地すべり学会正会員及び支部協賛企業、地盤工学会会員 合計 174 名
- ・演題及び講師

「斜面崩壊誘起型土石流のメカニズムとそのモデル化に関する考察」

防災科学技術研究所 上席研究員 酒井 直樹 氏

「数値解析と機械学習による地すべり発生特性の推定」 東北大学 教授 山田正太郎 氏

「豪雨による土砂災害予測の高度化に向けた数値解析と実験の融合の試み」

東北大学 教授 森口 周二 氏

「降雨浸透から斜面崩壊予測へー計測データの活かし方ー」

防災科学技術研究所 主任研究員 檀上 徹 氏

「浸透実験と実大規模実験の再現解析」

東北大学 助教 飛弾野壮真 氏

- ・総合討論

(4) 巡検・災害調査活動

① 2025 年度地すべり現地検討会 * (一社)建設コンサルタント協会 CPD 5.5 単位

- ・開催場所 福島県可沼郡柳津町「高森地すべり」
- ・開催日 2025 年 9 月 31 日～10 月 1 日 (宿泊：新鶴温泉 んだ)
- ・参加者 支部会員及び協賛団体職員 27 名
- ・テーマ 「地盤改良を取り入れた地すべり対策の効果と課題を考える」

すべり面を含む地盤改良による強度増加を見込んだ対策計画と、その後の地下水位変動に対する追加対策の有効性と課題についてグループ討議と意見交換を行った。

②災害調査は該当する案件がなかったことから実施していない。

(5) 研修活動

次世代の若手技術者への技術継承と若手同士の人脈形成を目的に、本部の若手対策事業費を活用し、演習をと現地研修を含む実践的な研修を施した。また、現地検討会に先立ち、「斜面防災危険度評価ガイドブックー斜面と地すべりの読み解き方ー」を活用し、地すべり地形の判読・AHP 評価・数値地形情報による地すべり評価に関するオンライン講習会を開催した。

①オンライン研修 * (公社)土木学会 CPD 認定 3.5 単位

- ・開催日 2025 年 10 月 22 日 13:00～17:00
- ・開催場所 東北支部事務局会議室およびオンライン (ハイブリッド形式)
- ・参加者 17 名
- ・講師 山形大学名誉教授 八木 浩司 氏 奥山ボーリング(株) 林 一成 氏
(株)東北開発コンサルタント 池田 浩二 氏

②現地検討会 * (公社)土木学会 CPD 認定 5.5 単位

- ・開催日 2025 年 10 月 29 日～30 日
- ・現地踏査 青森県北津軽郡中泊町小泊「権現崎地すべり」
青森県職員の若手技術者も参加して、地すべり地形や地すべり変状等を観察
- ・グループ討論会 中泊町ふれあいセンター多目的ホール
- ・参加者 27 名
- ・講師 山形大学名誉教授 八木 浩司 氏 奥山ボーリング(株) 林 一成 氏
(株)東北開発コンサルタント 池田 浩二 氏
- ・グループ討議

地形判読結果や現地踏査結果を元に、AHP による危険度評価を実施し、グループ内で合意形成のうえで討議内容をグループごとに発表を行った。

(6) 広報活動等

- ①支部だより第 36 号の発行（2025 年 12 月 20 日） 印刷部数 255 部、発送部数 255 部
- ②支部ホームページの更新、情報発信、各種事業案内・参加募集、支部行事等の掲載など
- ③講師派遣
 - ・（一社）秋田県地質調査業協会「令和 7 年度地質調査研修」（2025 年 7 月 23 日）
奥山ボーリング(株) 藤井 登 氏
 - ・宮城県砂防ボランティア協会研修会（2025 年 5 月 21 日）
(株) 復建技術コンサルタント 押見 和義 氏
- ④関連団体への後援・協賛
 - ・（一社）地盤品質判定士会東北支部 「住宅の基礎・地盤に関する講演会」（2025 年 5 月 9 日）
 - ・（公社）土木学会令和 7 年防災に関するシンポジウム
「災害査定のこれまでとこれから」（2026 年 1 月 21 日）
- ⑤東北支部創立 40 周年記念広告
 - ・2025 年 4 月 30 日付け河北新報に協賛企業 13 社の紹介とともに掲載

13. 新潟支部

(1) 2025 年度支部総会

2025 年 5 月 23 日（金）、新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」にて開催。
参加者は 16 名。

(2) 2025 年度支部講演会

2025 年 7 月 18 日（金）、新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」にて開催（対面・オンライン併用）。
講演会は 3 部構成で、若手対策事業も兼ねている。

一部；特別講演

新井場 公德（消防庁消防研究センター）：「消防の土砂災害対応について」

二部：2024 年度学生・院生対象研究助成 成果報告

佐藤 穂高（岩手県）：「マグネシウム合金を用いたオキシ水酸化鉄の還元による地下水排水管の目詰まり除去について一室内実験によるアプローチ」

清瀬 莉花（新潟大学大学院自然科学研究科）：「滝坂大規模地すべりにおける深層地下水の水質および動態の特徴」

太田 遥介（群馬大学大学院理工学府）：「糸魚川市中野口地区の土砂災害を対象とした有限要素シミュレーション」

三部：ベテラン技術者による若手向けの講演

伊藤 克己（一般社団法人 200ends）：「地すべり技術者は何を学ぶのがよいか？」

堀田 亨（株式会社 新協地質）：「地すべり学（学会）は面白い（仮題）」

参加者は対面・オンラインを合わせて 90 名。

(3) 新潟県地すべり災害記録 CD 改訂版の出版

2025 年 5 月 23 日、2025 年版を出版（2024 年に発生した地すべり災害記録を追加）。

(4) 現地見学会

2025 年 11 月 10 日（月）に新潟県上越市にて開催（日本応用地質学会北陸支部との共催）

「2024 年能登半島地震で発生した上越地方の斜面変動」をテーマに、2024 年能登半島地震で発生した上越地方の地すべり及び過去に発生した大規模地すべりの斜面変動地形と地質を見学した。

参加者は 11 名。

(5)新潟県地すべり対策研究会への参加

2026 年 3 月 19 日（木）、技術部会及び総会がオンラインで開催された。

支部からの参加者は 7 名。

(6)新潟支部ホームページの管理・運営

支部の活動、行事、出版物等の情報を適宜更新し、発信した。

(7)会議記録

2025 年度は幹事会としての会議は開催していない

必要に応じてメーリングリストを利用した書面審議（1 回）を行い、情報共有及び意見交換（適宜）を行った。

14. 関東支部

(1)総会・シンポジウム

2025 年 5 月 8 日 11:00～11:30

日比谷図書文化館（地下一階）大ホール

（東京都千代田区日比谷公園 1-4）

出席者数 28 名 委任状数 72 名 計 100 名（定足数 93 名以上）

総会終了後、シンポジウム「群馬県の火山と土砂災害」開催：参加者 60 名

- ・浅間山の噴火史と火山災害

安井真也（日本大学文理学部 地球科学科 教授）

- ・群馬県の土砂災害対策

佐々木実（群馬県 県土整備部 砂防課長）

- ・火山性地盤の地すべりへの対応 一万座地区地すべりについてー

畠山幸男（国土防災技術株式会社 内部統制業務統括担当理事）

- ・総合討論（コーディネータ：櫻井正明・株式会社山地防災研究所）

- ・概要集発行

シンポジウム終了後、意見交換会を開催：参加者 27 名

(2)現地検討会

テーマ：「群馬県奥万座地区の地すべり災害対策」

期 日：2025 年 11 月 6 日

場 所：群馬県吾妻郡嬬恋村 干俣

協 力：林野庁関東森林管理局吾妻森林管理署

参加者：17 名（有料）

内 容：奥万座地区地すべり対策工事を見学

(3)（一社）斜面防災対策技術協会 関東支部との共催事業

名 称：技術講習会「能登災害の調査報告」

期 日：2025 年 10 月 17 日

会 場：埼玉建産連研修センター 大ホール

主 催：（公社）日本地すべり学会 関東支部・（一社）斜面防災対策技術協会 関東支部

参加者：70 名（無料）

内 容：

- ・現地観測結果から考える「初生すべり」から「地すべり」の遷移プロセス
石井靖雄（（一財）砂防・地すべり技術センター）
- ・能登半島地震による各種の地盤災害発生状況およびその地質的素因について
佐藤昌人（（国研）防災科学技術研究所）
- ・令和6年能登半島地震での調査団活動報告
上野雄一（（一社）斜面防災対策技術協会 能登半島地震現地調査団）

(4) 若手対策事業

若手技術者への技術継承を目的として、ベテラン技術者を講師に勉強会を開催した。

テーマ：「Technical Judge（技術者の判断）」

期 日：2025年6月21日

会 場：東京都市大学 横浜キャンパス

主 催：（公社）日本地すべり学会関東支部

講 師：上野雄一（日特建設株式会社）

櫻井正明（株式会社山地防災研究所）

参加者：33名（うちフェロー5名）

(5) 運営委員会・幹事会

① 運営委員会

- ・第1回：2025年4月24日 オンライン会議 出席者11名

② 幹事会

- ・第1回：2025年4月9日 オンライン会議 出席者14名
- ・第2回：2025年6月23日 オンライン会議 出席者16名
- ・第3回：2025年9月18日 奈良春日野国際フォーラム 出席者21名
（ハイブリッド形式、内オンライン参加1名）
- ・第4回：2025年12月12日 消防研究センター 出席者24名
（ハイブリッド形式、内オンライン参加5名）

③ 群馬大会関係

- ・2025年6月23日：第1回関東大会準備委員会 オンライン会議 出席者16名
（内2名オブザーバー参加）
- ・2025年8月7日：第2回関東大会準備委員会 消防研究センター 出席者18名
（ハイブリッド形式、内オンライン参加11名）
- ・2025年9月4日：第1回群馬大会実行委員会 群馬県高崎合同庁舎 出席者12名
（ハイブリッド形式、内オンライン参加2名+オブザーバー参加15名）
- ・2025年9月18日：第1回群馬大会幹事会 奈良春日野国際フォーラム 出席者21名
（ハイブリッド形式、内オンライン参加1名）
- ・2025年11月14日：第2回群馬大会幹事会 オンライン会議 出席者10名
- ・2025年12月12日：第3回群馬大会幹事会 消防研究センター 出席者24名
（ハイブリッド形式、内オンライン参加5名）

(6) 広報活動等

- ・関東支部 Web ページ更新

15. 中部支部

(1) 支部運営委員会

2025 年 4 月 18 日

- ・場 所：T0iG0 長野市生涯学習センター(長野市)
- ・出席者：20 名

(2) 支部総会及び特別講演

2025 年 4 月 18 日

- ・場 所：T0iG0 長野市生涯学習センター(長野市)
- ・講 演：「豪雨時の流出機構における土壌水・地下水・パイプの役割を考える」
京都大学 名誉教授 谷 誠 氏
- ・参加者：94 名

(3) 現地見学会・検討会

2025 年 8 月 21 日～22 日

- ・場 所：静岡県浜松市天竜区
- ・現地見学：長沢地すべり、渡ヶ島禿石災害
- ・検 討 会：「静岡県の土砂災害対策について」
静岡県 交通基盤部 河川砂防局 砂防課 課長 杉山一仁 氏
「長沢地すべり災害の初動対応から警戒避難体制について」
静岡県浜松土木事務所 天竜支局 支局長 井倉基 氏
「長沢地すべりの発生から対策工検討について」
日本工営株式会社 静岡事務所 富田秀樹 氏
「長沢地すべり災害関連工事の施工方法について」
天龍土建工業株式会社 鈴木芳典 氏
- ・参 加 者：80 名(共催団体である治水砂防協会静岡県支部の参加者 21 名を含む)

(4) シンポジウム

2026 年 1 月 28 日

- ・場 所：T0iG0 長野市生涯学習センター(長野市)、オンライン
- ・テ ー マ：「災害の記憶と、次世代へ技術を繋ぐ」
～諏訪の隠れた地震と豪雨災害からの教訓～
- ・基調講演：「知られざる東南海地震～諏訪地域の地震被害の伝承と教育～」
伊那市立東春近小学校教諭 奥山加蘭 氏
- ・講 演 1：「天竜川上流域での災害伝承と治水・砂防」
国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所長 吉田桂治 氏
- ・講 演 2：「マスメディアの防災啓発について～伊那谷災害、東日本震災を通して～」
伊那ケーブルテレビ アナウンサー 平山直子 氏
- ・パネルディスカッション：「災害の記憶と、次世代へ技術を繋ぐ」
パネリスト
伊那市立東春近小学校教諭 奥山加蘭 氏
国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所長 吉田桂治 氏
伊那ケーブルテレビ アナウンサー 平山直子 氏
長野県土尻川砂防事務所長 玉川博之 氏
コメンテーター
日本地すべり学会中部支部 支部長 堤 大三 氏

司会

日本地すべり学会副会長 飯沼達夫 氏

・参 加 者：153 名(会場参加者 71 名、オンライン参加者 82 名)

(5)アウトリーチ活動

①「環境防災学～地すべりってなに？～」への講師派遣

2025 年 11 月 21 日 「地すべり現象とは」、「大学生の研究紹介」、「仕事の紹介」等

2025 年 11 月 28 日 「地形の読み取り方(グループワーク)」、「地すべり学会の活動紹介」等

・場 所：長野工業高等専門学校(長野県長野市)

・出 席 者：14 名(講師 9 名、グループワーク対応 4 名、運営スタッフ 1 名)

・参 加 者：1 日目 44 名、2 日目 28 名

(長野工業高等専門学校 先生 2 名、1 日目の参加学生数 42 名、2 日目の参加学生数 26 名)

②「地質調査法実習」への講師派遣

2026 年 1 月 23 日 座学「地すべりとは」、「仕事の生まれ方」

実習「コア観察」、「観測実習」「安定解析実習」

・場 所：信州大学理学部(長野県松本市)

・出 席 者：7 名(講師 5 名、運営スタッフ 2 名)

・参 加 者：21 名(信州大学理学部 先生 1 名、学生 20 名)

(6)中部支部ニュース発行

2026 年 3 月 31 日

(7)幹事会

2025 年 4 月 11 日：長野市生涯学習センター(出席者 20 名 ※オンライン参加者 4 名を含む)

2025 年 7 月 25 日：長野市生涯学習センター(出席者 21 名 ※オンライン参加者 2 名を含む)

2025 年 12 月 11 日：長野市生涯学習センター(出席者 26 名 ※オンライン参加者 3 名を含む)

2026 年 1 月 15 日：長野市生涯学習センター(出席者 26 名 ※オンライン参加者 7 名を含む)

16. 関西支部

(1)第 1 回運営委員会

① 日時：2025 年 4 月 4 日

② 場所：京都大学防災研究所 E517D+Zoom によるオンライン開催

③ 出席者：16 名 委任状：1 名

④ 議事：

報 告

2024 年度第 2 回運営委員会議事録、2024 年度支部事業報告、会誌「らんどすらいど」No. 40、
協賛会員名簿、2024 年度支部決算報告、2025 年全国大会準備状況

議 題

運営委員の追加について、2025 年度事業計画、2025 年度予算計画

(2)若手技術者支援企画

「阪神・淡路大震災の地すべり災害と地表地殻変動」勉強会

① 日時：2025 年 5 月 16 日 9：20～17：30

- ② 見学場所：西宮市仁川百合野町地区・地すべり資料館、北淡震災記念公園・野島断層保存館
淡路島北端・江崎灯台
- ③ 主催：(公社)日本地すべり学会関西支部・京都大学防災研究所斜面未災学研究センター
- ④ 見学参加者：30 名
- ⑤ 講師：土井一生（京都大学防災研究所）

(3) 技術研究集会＜萌芽的技術研究の部＞開催

- ① 日時：2025 年 5 月 22 日 10：00～12：45
- ② 場所：大阪ドーンセンター
- ③ 主催：(公社)日本地すべり学会関西支部
- ④ 共催：京都大学防災研究所斜面未災学研究センター
- ⑤ 参加者：15 名程度
- ⑥ 講演者とタイトル
 - ・淡路島南部の和泉層群における地すべりの地形・地質的特徴
佐藤達樹（国土防災技術(株)）
 - ・能登半島地震で発生した大久保崩壊とその周辺の水質について
渡壁卓磨（森林総合研究所）・松澤真（京都大学）・佐藤昌人（防災科学技術研究所）
 - ・山体の岩盤内地下水位変動からみた土石流発生危険度と同時多発的な土石流発生メカニズム
小谷隼人（広島大学）
 - ・細粒土の単純せん断試験 ―せん断応力載荷速度がクリープ変形に与える影響―
赤井碧宇（高知大学）
 - ・既存アンカーの効果を考慮した地すべり安定解析の事例紹介
宮翔太（(株)エイト日本技術開発）
 - ・ボーリングコアに試行した X 線反射強度とエコーチップ反発値の比較
森遥（復建調査設計(株)）
 - ・高校理科に眠る斜面未災 ―項目の検討―
土井一生（京都大学）
 - ・総合討論「若手が夢想する新技術」

司会：中井真司（復建調査設計（株））、パネリスト：講演者

(4) 技術研究集会＜実践的技術研究の部＞開催

- ① 日時：2025 年 5 月 22 日 14：00～16：50
- ② 場所：大阪ドーンセンターおよび Zoom によるオンライン開催
- ③ 主催：(公社)日本地すべり学会関西支部
- ④ 共催：京都大学防災研究所斜面未災学研究センター
- ⑤ 後援：(公社)砂防学会関西支部、(公社)地盤工学会関西支部
- ⑥ 参加者：会場参加 32 名、Web 参加 196 名（計 228 名）
- ⑦ 講演者とタイトル
 - ＜基調講演＞
 - ・「土壌の基礎理論と防災との関わり」 藤井一至（福島国際研究教育機構）（オンライン講演）
 - ＜技術報告＞
 - ・住民参加型の防災マップの作成による防災意識の変化―長野県辰野町の事例―

松澤真(京都大学)

- ・ 3次元落石シミュレーションを用いた落石防護柵の設計手法

美馬健二(太田ジオリサーチ)

- ・ 地すべり対策モデルの作成・活用事例

原田隆弘(復建調査設計(株))

〈総合討論〉

- ・ 新技術が革新する地すべり防災

司会：渡邊聡(復建調査設計(株))・土井一生(京大防災研)、パネリスト：講演者

(5) 関西支部 総会

- ② 日時：2025年4月21日～4月25日

- ③ 開催方法：メール審議

- ④ 議事

報告

2024年度活動報告、2024年度決算報告、2025年度活動計画、2025年度予算、その他

(6) 第2回運営委員会

- ① 日時：2025年11月7日

- ② 場所：京都大学防災研究所 E507D+Zoom によるオンラインのハイブリッド形式

- ③ 出席者：14名 委任状6名

- ④ 議事

報告

2025年度第1回運営委員会議事録、2025年度支部事業報告、行事関係会計、2026年度今後の事業予定

議題

2026年度支部行事について、その他

(7) 「らんどすらいど41」会誌の発行・発送

- ① 日時：2026年2月5日

- ② 執筆者とタイトル

弾性波を用いた斜面表層モニタリングに向けた地盤水分量変化に対する弾性波応答を調べる実験

中山雅之(京都大学防災研究所)・川方裕則(立命館大学)・土井一生(京都大学防災研究所)

DMSを用いた樹木衝突による落石挙動の変化を考慮した3次元落石シミュレーションの試み

美馬健二、川浪聖志、稲田哲士(有限会社太田ジオリサーチ)

内湖堆積物と地すべりから読み解く人新世の開始ー滋賀県曾根沼・荒神山を事例にー

山崎新太郎(京都大学防災研究所)

地すべり学会関西支部・若手支援企画2025

「阪神・淡路大地震の地すべり災害と地表地殻変動」開催報告

山崎新太郎(京都大学防災研究所)

編集後記

山崎新太郎(京都大学防災研究所)

17. 九州支部

(1) 支部幹事会

①第1回

開催日：2025年5月12日 12:30～15:30

開催場所：TKP 博多駅前シティセンター カンファレンス 6

参加者：出席 11 名，委任 44 名（幹事 計 55 名）

②第2回

開催日：2025年6月3日 10:30～11:30

開催場所：ニューウェルシティ宮崎 松の間

参加者：出席 14 名，委任 41 名（幹事 計 55 名）

(2)支部総会

開催日：2025年5月22日～6月4日

開催形態：Web で期間内に投票する形態（電磁的方法）

参加者：61 名

議 題

第1号議案 2025年度支部役員選出

第2号議案 2024年度決算報告および監査報告

第3号議案 2025年度予算

第4号議案 2025, 2026, 2027年度の総会・講演会開催地

第5号議案 活動方針について

その他

報告・懇談事項

(3)支部学術講演会、意見交換会

①支部学術講演会

日 時：2025年6月3日 13:00～17:30

開催場所：ニューウェルシティ宮崎

参 加 者：78 名

基調講演 3 件

三橋剛（宮崎県県土整備部 砂防課長）

篠原慶規（宮崎大学農学部 准教授）

川畑大作（（国研）産業技術総合研究所 主任研究員）

一般講演 7 件

総合討論

②意見交換会

日 時：2025年6月2日 18:00～20:00

開催場所：ニューウェルシティ宮崎

参 加 者：44 名

(4)支部現地検討会

日 時：2025年6月3日

開催場所：宮崎県「県南地域の斜面災害と地質」

参 加 者：34 名

(5)支部講習会

支部技術検討会（事務局：沖縄会）

日 時：2025年12月24日 13:30～16:30

開催場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

参加者：61名

基調講演 2件

上原慎二郎（沖縄県土木建築部）

一般発表 5件

総合討論

(6)九州支部ホームページの管理・運営

- ・支部役員・幹事の更新、支部活動・行事のお知らせ、他学会・協会の行事等の情報共有

(7)アウトリーチと若手会員活性化に関する活動

- ・地すべり・斜面防災におけるアウトリーチ、若手会員に関する活動について、担当の香月副支部長と田口代議員が実施した福岡県地質調査業協会のジュニアラボの詳細な情報を得て、次年度からのアウトリーチと若手会員対策事業の活動を検討した
- ・第2回支部幹事会で潜在的若手会員への学会活動参加を促す活動を行うこととし、共催イベント参加で新たに学生会員となった1名へ旅費支援を行った

(8)共催・後援事業

①2025年度 現場見学会（第15回）

共催：（一社）斜面防災対策技術協会九州支部、九州地区地すべり防止工事士会

開催日：2026年1月16日

②先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2025

主催：先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2024 開催委員会（熊本県・熊本市・一般社団法人地域産業活性協会）

後援：（公社）日本地すべり学会九州支部ほか

開催日：2025年11月19日-11月20日

会場：グランメッセ熊本

③斜面崩壊と雨の降り方の関係に関するシンポジウム 北九州 2025～豪雨災害の特徴から避難までを考える～

主催：（公社）土木学会西部支部，北九州市

後援：（公社）日本地すべり学会九州支部ほか

開催日：2025年11月28日-11月29日

会場：北九州市立男女共同参画センター

18. 会員数対策

(1)若手対策 WG

◆地すべり学会 BIM/CIM ネットワーク（2025年3月31日現在）

参加者数 152名（昨年比+11名）

オーガナイザー 18名

アドバイザー 2名

事務局 3名

【オーガナイザー・ミーティング】

- ・第18回 2025年4月14日（Web開催）（参加；11名）

議題；①由比地すべり現地勉強会について

－開催概要の決定

②その他

- 【現地勉強会】

- 【その他】

- ## ◆若手対策事業

各支部が主催する行事として実施（各支部報告参照）

① 春期談話会 2025 年 6 月 28 日

「消防の土砂災害対応にまつわる課題」

: 永井修氏 (15 分 + α スピーチ)

「前立腺がん患者の視点で PSA を考察」——PSA 値のグラフを読み取る——

参加者数：15 名（講師は除く）

- 討議内容：秋期巡検の候補地について

シニア会の新陳代謝方策等について

参加者数：8名

- 案内役：土屋智 静岡大学名誉教授

大森風生 国土防災は技術(株)静岡支店

: 亀田尚志 日本工営(株)静岡事務所

巡検地：「静岡市葵区日坂本地区」

主なコース：静岡駅→口坂本 B 地区→大日峠付近の二重山稜（昼食）→口坂本 No. 2 地区→静岡駅
参加者数：10 名（案内役は除く）

19. アウトリーチ

(1) 支部活動のアンケート

各支部の過去 3 年間の活動実績や今後の実施計画、意見・要望等に関するアンケートを実施した。

(2) 次年度の活動方針の検討

2023 年 5 月に開催された担当理事と各支部の担当者によるアウトリーチ検討連絡会以来、次年度早々、3 年ぶりに前回会議以降の活動状況を振り返る連絡会を開催し、今後の方針や優先的に取り組む活動内容について協議・意見交換を行う予定で調整を行った。

事業報告の附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特にないため、附属明細書は作成しない。